

昭和二年一月十五日

佐世保
横濱實地方法復原局人事部長殿

戦没者の件申告

首題の件別紙の通申告致します

別紙

申告書

戦没者の

官制奉勅三尊厳奉告

昭和二年一月

昭和二年一月

三日

戦没場所 与津

戦没状況(一)

電報符
手

22-15

別紙

本籍地

遺族住所 氏名

続柄

その他参考事項

(二) 申告者

本籍地

現住所

官職 経歴 氏名

所属 艦船 部隊 経歴

佐々保 置所 第七艦團

明記

昭和貳拾貳年壹月壹拾六日

佐々保地方復員局人事部長殿

由告者

本籍地

元 佐々保海軍新部第七船團

其73 第五保南光船長

戦没状況

昭和貳拾貳年一月三日午前七時三十分ヨリ臺灣蘇澳

港港内ニ於テ敵艦載機四番三機ニ空襲サレ午前七

時甲分機用長ハ戦死中右下復部三貫

通銃傷ヲ受テ後部甲板左舷倒サレ船長及甲板長ト

共ニ手当中七時四十分ゴロ右舷船尾約六七米ノ海中

株式会社

ニ爆彈が投下され其ノ爆風ヨリ九艘海中ニ投下シ早速
本船傳之舟ニテ甲板長外甲板員二名ニテ救助シタル至
近彈ニテ傳之舟が浸水が激シク水船ト成リ陸地ニ休養ス
ル事モデタルハ時十分頃ヨリ三戰死セリ翌四日船團長初
ノ船團全員ニテ同地デ火葬ニシ五日正午ヨリ骨上
オシ同地舟ニ保管シ同月十日基隆運輸部ニ保管
シタシタ遺留品、莫ハ五日午前中船團長及
中ト船長外三名立會テ書類ヲ作製シ同時ニ何作
シ十日遺骨ト共基隆運輸部ニ保管シタタ

右ノ通り

現在

現部證明書

本籍地
所屬部隊

美保海軍航空隊三三根附
官氏名
死亡前
海軍上等水兵

一役種兵種年二國水昭示年

一死亡年月日時昭示年一月五日夜十時七分(推定)

一同場所
昭示年一月五日

一同區分
昭示年一月五日

一死亡事由又八病及
現部事由昭示年月日

一遺骨の有無
昭示年月日

一遺族の現在所
昭示年月日

右相違無キコトヲ證明ス

昭示年四月八日

現部者

本籍地
所屬部隊
昭示年三月三日

死亡者履歷
年月日
昭示年一月五日

昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日
昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日
昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日
昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日
昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日	昭示年一月五日

公

元海軍軍人現況不明者調書

明		ト 24A		監理官	
所轄(許今年月日)	等 級 氏 名	生年月日	入籍番號	本 籍 地	住 所
カ六長運丸 (昭和三十二年一月十日)	上 茂 七	三 月 二 日	三 二 〇	大 字 〇	大 字 〇
留守担当者	父 氏 名	現 住 所	現 住 所	現 住 所	現 住 所
既 知 事 項	一、佐世保人事 業務調査料 二、世話課(科) 資料 三、家族(身寄) 承知事項	一、(1)遺骨有無() (2)遺留品()有()無()	現 住 所	現 住 所	現 住 所
情 報 提 供 者	内地歸還年月日	都 道 府 県 市 町 村	氏 名	入籍番號	現 住 所
昭和三十二年一月十日	四 月 二 日	上 所 費	氏 名	入籍番號	現 住 所
行の隊部	一、編成の時期及び場所(昭和三十二年一月十日) 二、内地出發の時期及び場所(昭和三十二年一月十日) 三、進 出 要 領	一、本人とは何處で何時迄一緒にいたか 二、その時の本人の状況	現況不明者個人に関するもの	カ六長運丸で 至昭和三十年一月十日	自昭和 年 月 日

144

終結 時分	二、時間経過及び経過について の説明を入手している所	戦況の斗戦		戦行一同と者明不況現		戦行別と者明不況現	
		五、参戦(被害)の概況	六、終戦時の状況	七、終戦後の状況	八、歸還の状況	九、参戦者の数	十、集結又は收容地
(公)	此世保人申出時既に決定	(イ) 空襲 (ロ) 陸襲	(イ) 所在地 (ロ) 隊員数 (ハ) 傷病者数	(イ) 給食 (ロ) 衛生 (ハ) 開始	(イ) 最前線 (ロ) 留置者	(イ) 集結又は收容地	(イ) 集結又は收容地
(明)		五、事故の原因及びその年月日 (イ) 空襲、機水爆、砲撃 六、事故発生時の位置及び被害の状況 七、被害の状況	五、事故の原因及びその年月日 (イ) 空襲、機水爆、砲撃 六、事故発生時の位置及び被害の状況 七、被害の状況	一、艦船名 二、行動の概要 (イ) 出港地及び年月日 (ロ) 寄港地及び年月日 四、便乗者の所轄、軍人、軍属別員数	二、行先 (イ) 出港地及び年月日 (ロ) 寄港地及び年月日 四、便乗者の所轄、軍人、軍属別員数	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況
(公)	此世保人申出時既に決定	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況
(明)		三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況
(公)	此世保人申出時既に決定	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況
(明)		三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況
(公)	此世保人申出時既に決定	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況
(明)		三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況	三、開戦時名 四、参戦者の数 五、被害の状況 六、被害の状況 七、被害の状況

郭·**飛**·陸

[illegible]

裏面記載上の注意を見て下さい。(※及て、面の奇欄は配載に及びません)

一、本証問答は本編問答の死因の処置を行う場合の基本となる監獄書類でありますから特に正確に書いて下さい。従つて、記實が不明瞭なところには〇をつけてその旨を明かにして下さい。

二、死亡を知つた方法の欄には、自から発見した（見た）、死水をつた、臨終に立會つた、屍體兵に立つた、慰靈祭又は親戚に参列した、某から聞いた（この場合にはそれが死亡を認識したのかどうかを附記すること）死亡したことを命令等で見た等死亡事實を知つた方法を具体的に書いて下さい。

三、死亡當時の状況になるべく詳細に記入して下さい。又資料資料として「貴方の外に本人の死亡事實を知つてゐる人があれば、その人の氏名（所屬（職職）、本籍地等）」「死亡者の特徴（面型、体格、特長、職業（前職）等）」「死亡者が居た場所を、その言明後数日以内採月年月日等」その他死亡場について御承知になつてゐることは附記して下さい。

四、資料提供者の記入欄中、記入の出来なかつた事項を、調査官が訂正又は、補加した場合「」を用いて記入し、資料提供者の記入したものと区分すること。

現況不明者定冊調書

提督府接所石

対象

所管所 艦隊 報氏

名

新

事

吳

芝罘丸

一曹

報

情

五ノ八一六上海に於て
 仁と班長に付七名の乗船者輸送は満了といふがニロー一八 西貢に到着
 左泊中、ニロー一三 敵機の爆撃を受ける際、班長は頭部を負傷
 傷即死した。當日は午刻八時頃より午後四時頃まで敵機動隊の機銃
 攻撃を受け機動部隊は命中し、死者は延焼火災を起し、乗員八名、通船
 班長の死体は西貢水路に漂ひ、船中を捜索し、船中を捜索し、船中を捜索し、
 には遺骨は陸軍隊員に発見され、遺骨を没けり。西貢に上陸し、遺骨を
 発見し、大岩は防空隊に侵入され、班長の戦死報告は、兵士が確
 かにとらえたといい、西貢外大岩に遺骨に発見され、西貢外大岩の森
 院船に送還され、西貢外大岩に遺骨に発見され、西貢外大岩の森
 尚派遣隊員生存者は次の大岩にあり。

問縣カ概要

年 月 日 病 又 是 受 傷

癩病多是從傷風感
寒而起又因受傷時
氣而起

病名ハゴクニナリガイヤ日午後ヨリ顔が青クナリ
 唇も青ヘタスガク身休クルニナリヨ時フトモモニ綻
 ラミテモナシヤギナナリ最後ヲ遂ゲタ

A
十
六
日

病乃ハヨクミナリガ十七日午後ヨリ顔ガ青クナリ

言ハタスガク一拜ハクルナリニ時、フトモモニ鞍付

フミデモナリ
スミナリ
最收ノ益ト云

死歿者調書

本籍地

現任所

所屬部隊

國手日

等
久及

內
下
月
出
日

日美

事務費

臨

年 月 日

病名又曰發背

卷之五

[REDACTED]

右
同
一

臺北縣政府第三區海軍航空部隊

昭和十九年五月五日

上等兵

昭平年十一月

11

1000

卷之六

病方

卷之八

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

部隊

六經
五備六

入籍

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

1

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

子

下五

死し前ハ氣持ハタカニアリ死し前ハ身付ラズ
クレト云々ガミニテ三十分後鼻血ニナリ

死之の場合	船艙内	死之時の状況	右の通り氣絶してゐるよりから申告致しある	申告人	警署長	告本籍地	右同	者現住所	鹿児島県鹿児島市第三電燈海軍航空部隊	の所属部隊
昭和二十一年十一月	二十一年十一月十七日午後三時頃	立時ハタニカニアリ		警署長	警署長					

本調査書は死歿者の身上関係一切を処理するものがあるから、慎重に且つ詳細に記入して下さい
 他人から聞いたり承知した事項、其他参考となるべき資料はその旨、仔細に市記入下さい

66914

兵人第五編ノ三八ノ五一九

皇地方官員局人事部

現況不明 香川県警(昭和) 年 月 日

4/11

報告者		本人		回答		備考	
現住所	等級上曹氏名	本籍地	所轄	轉出先	轉出年月日	通過地名	行方方法
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	皇和九兵衛	皇和九兵衛	昭和九年六月乗船		
入籍番號	特技章	原死場所	死因	その他	備考	一註一死後關係事項は推定でも結構ですから記入して下さい 破片より抽出された戦死者と推定	
[Redacted]	[Redacted]	皇和九兵衛	皇和九兵衛	皇和九兵衛	皇和九兵衛	昭和九年六月乗船	

6193

答

相

(訖)

推定書此等事 李三司等雖等事 主上御時 是といふ 往所氏名	大平 内地土産地名 年月日 慶長時所撰(部傳)	下託在籍軍人 軍属死没者又は 最中消息を以て しるす者 左 右 此等懷持 此等下 此等	一本巻は 慶應元年 不知何事 云消
捕賀上陸 日武 年 月 日	海軍省 捕賀上陸 日武 年 月 日	有 有 有 有 有 有 有 有	有 有 有 有 有 有 有 有

生戰
存殁
者者
確
認
報
告

島根縣民生部古話課第二復貞係

報告者當時の所轄（部隊名）

報告者の官職氏名（電報符号）

報告者の本籍地及現住所

官職

氏

名

人

出身地

卷之五

卷一百一十五

易說

先

况

10

元氣
變



7

牙

20
1
4

亦見
五

[illegible]

昭和七年七月大正十站變停印サシナリオニ食糧輸送口同

昭和十一年八月十七日

氏	所屬品級	現住所	本籍地
名	第十五次備後 [redacted] 秋成	[redacted]	[redacted]
	官等級		
入府當時	水島長		

附
考

（）本國番ハ部族長又ハ發務取扱者等ニ於テ與知方役員人等長宛通報シ非スト認
ムルモノノミニ付記位ス

ムルモノニ付配成ス

二 兵饒在藩ノ特務士官、准士官、下士官、兵付肥後ス

白岡府縣人ハ勿論他府縣出身者ニ就テモ記燬ス

恒知待シテ九龍圖ニ於テ出來得ル強リ詳細ニ記載ス

内送付先

獎市

與知方復自勸人舉而最冠

一九二〇年

死者調書

本籍地

現住所

所屬部隊

入國月日

官等級

戰地到着年月日

勤務概要

病名(受傷部位)

死亡年月日

死因

死後処理場所

右申告人

右申告人

本籍地	本籍地と同じ
現住所	
所屬部隊	海軍航空隊(小幡飛行場整備中隊)
入國月日	昭和十八年八月十日
官等級	二等曹
戦地到着年月日	昭和十九年八月十日
勤務概要	昭和十九年八月十四日本島上陸と同時に飛行場勤務、昭和二十年四月敵上陸と同時に陸戦隊となり、陸軍に協力戦闘に参加、本島東南部マニラ湾岸附近に戦死した。
病名(受傷部位)	
死亡年月日	昭和二十年四月三日
死因	腹部貫通傷にて即死。
死後処理場所	昭和二十年四月三日、本島東南部マニラ湾岸にて。
右申告人	右申告人

氏名	所屬部隊	現住所	本籍地
	海軍航空隊		
	官等級		
	入籍番號		

備考

- (一) 本調書ハ部隊長ハ其職方取扱者等異地方復員局ハ事務部長宛通報スル責任在者ニ於テ知得シマスハ調査モノノミ付記載ス
- (二) 異職在籍ノ復員者官准キ官下ニ官共ニ付記載ス
- (三) 同姓異人ハ勿論他存続者ニ對シテ前イテモ記載ス
- (四) 知得シタル近聞ニ於テ出来ル限リ詳細ニ記載ス
- (五) 他人ヨリ聞キテ知シタル事項ハ各當該欄ニ相手方ヲ記載ス

52-10

66413

寫

戰效確報表

報告者：當町、所轄（部隊名）第三聯隊（師團第九聯隊）

官職氏名（報告者）二村吉

本籍及現住所

官職

氏名

出身地

戦死

年

月

日

場所

状況

35年

戦場

[Redacted]

[Redacted]

戦死

20年

2月

24日

所轄

状況

D-92P

9.4.12

15278

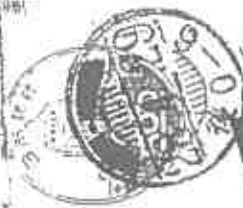
戦死
20年
2月
24日
所轄
状況

邦·海·鹽

[illegible]

郵便はがき

第二復員局殘務處理部復員業務課


$$\sqrt[n]{a} = a^{\frac{1}{n}}$$

得て来元
 家元古時の豫と等
 家元古時の豫と等
 家元古時
 家元古時

10/10/10

死歿者調書

(行方不明者)

本籍地	[Redacted]		
現住所	[Redacted]		
所屬部隊	南洋群島パオオ島第四五陸隊 [Redacted] 部隊 [Redacted]		
入團月日	[Redacted]		
官子級	水兵長	氏名	[Redacted]
内地派遣出發年月日	横濱	昭和丁未年四月十五日	出發
戦地到着年月日	パオオ	昭和丁未年四月	到着
勤務概要	パオオ島に到着後、防衛地日四番主所南砲臺警備 此間手配三月四日南洋神隊警備より未帰還と推定され、 油庫庫中、追索、係り死体五名一頭、一丁死体、老人、元氣者、 何れもパオオ島に侵入せず、テ絶命す		
及亡時状況	戦死 昭和丁未年四月十五日		

戦死

Cam 10

發病受傷年月日	〃
病名受傷部位	
發病當時	全身身燒傷
死後年月時刻發病所由 昭和廿三年一月廿八日午後二時三十分頃、東京府八王子市	
石申告入	
昭和廿三年一月廿八日	
本籍地	
現居地	〃
告	〃
氏名	〃
入籍番號	

461-10

[illegible]

死後者調書

自出控三ノ粒ノ依質將浦海邊船所ニテ中ノウシ控九年控月通水事ナリ
 九月ナリ依此便港ニ行キ休出登
 四ノヒヲナ入
 控有智恵船工島港着ニ言候所港沖十八港着
 控有二三控八月台港キイル港着

死の場所 馬場

昭和二年三月廿四日 夜前（時）

死亡時の状況

右の通り承知して、そのうち申出致し、

昭和二年四月廿二日

中入籍番号 [redacted] 萬銀上等兵

生前籍地 [redacted]

看護住所 [redacted]

所属部隊 陸軍部隊

備考

一、本調査は、死者の身上関係一切を、

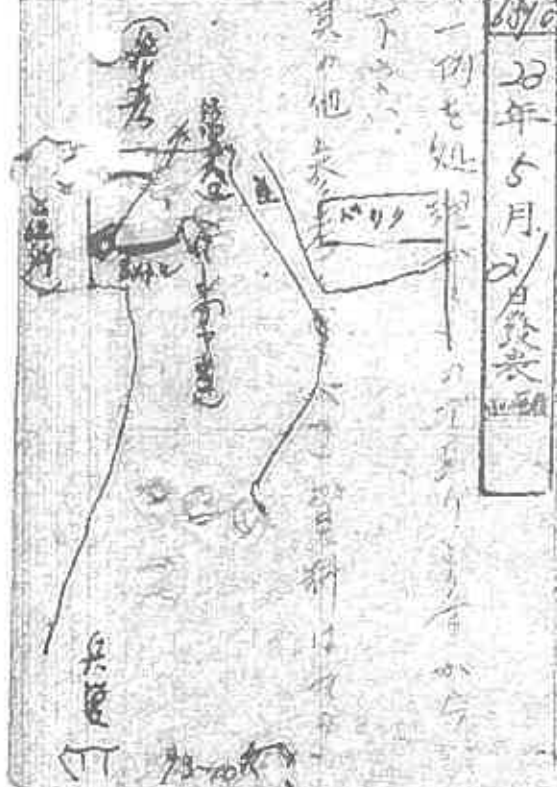
調査し、直に詳細に記入した下、

他人の口から聞き知った事項、

皆、別紙に記入する。

今、調査員は、

調査した結果、



35258

35258

35258

死没者調書

籍

任

所屬部隊

昭和十五年十一月

官階級

姓名

生年月日

入籍地

役種

役種

死没場所

死没年月日

死没原因

勤務概要

死没(受傷)年月日

死没(受傷)部位

死没(受傷)原因

死没時状況

死没場所

昭和十五年十一月十八日

死没原因

七車

死殲者調書

452.

[illegible]

補考

本調書、部隊長又ハ、現勢取組者等ニ於テ、吳地方復員局人
事部長迄通報スルハ、認ムルモノニ付記載ス
吳鎮在籍者、特務警官、准士官、下士官共ニ付記載ス
同村縣人ハ勿論他村縣出身者モ記載ス
知得タル範圍ニ於テ出来得ル限リ詳細記載ス
他人ヨリ聞キテ承知シタル事項ハ、各管該欄ニ相手方ヲ記載ス
送付先

吳地方復員局人事部長宛

福

定

606

8

本人親不睦者証書	氏名	生年月日	本籍
氏名	生年月日	本籍	備考
受取人の住所	送付日附	郵政特便	受取人印
昭和二年三月	内容	不明	昭和二年三月
昭和二年三月	内容	不明	昭和二年三月

344

34

是人名為一三八A、B

死役者調書

(材料不明)

奈良縣世話課第二復員

本籍地	[Redacted]		
現住所	[Redacted]		
所屬部隊	多摩西報		
入団日	昭和五年五月	役種	
官等級	上等兵	氏名	[Redacted]
	生年月日		
戰地勤務	昭和五年六月一日	勤務地	舞鶴港發
勤務概要	昭和五年六月一日	勤務地	朝鮮元山方面
行方不明トナリ年月日及ト當時状況	[Redacted]		

45

發病(受傷)年月日

病名(受傷部位)

治療(醫院)名稱

症狀(當時)情形

右

申告 不 三 年 七 月 日

本籍地

歸郷地

所屬部隊

氏名

急性肺炎 (世襲) 昭和三十二年七月

不

三 年 七 月 日

申告 不 三 年 七 月 日

本籍地

歸郷地

所屬部隊

氏名

昭和三十二年七月

昭和三十二年七月

昭和三十二年七月

昭和三十二年七月

昭和三十二年七月

昭和三十二年七月

昭和三十二年七月

昭和三十二年七月

23-10-30

[illegible]

現況不明者因息調查依類票（昭和二十一年七月二十日）
並由該部復查業務課履歷認定有誤

114-15

答	問	(注)
本表は、本府に在る各官の職名、職階、職掌、及び、その、所屬、の、部、課、を、示、す、の、爲、に、作、成、せ、ら、れ、た、も、の、で、有、り、ま、す。	本府に在る各官の職名、職階、職掌、及び、その、所屬、の、部、課、を、示、す、の、爲、に、作、成、せ、ら、れ、た、も、の、で、有、り、ま、す。	本表は、本府に在る各官の職名、職階、職掌、及び、その、所屬、の、部、課、を、示、す、の、爲、に、作、成、せ、ら、れ、た、も、の、で、有、り、ま、す。
本表は、本府に在る各官の職名、職階、職掌、及び、その、所屬、の、部、課、を、示、す、の、爲、に、作、成、せ、ら、れ、た、も、の、で、有、り、ま、す。	本府に在る各官の職名、職階、職掌、及び、その、所屬、の、部、課、を、示、す、の、爲、に、作、成、せ、ら、れ、た、も、の、で、有、り、ま、す。	本表は、本府に在る各官の職名、職階、職掌、及び、その、所屬、の、部、課、を、示、す、の、爲、に、作、成、せ、ら、れ、た、も、の、で、有、り、ま、す。

49398

本籍地	現住所	所屬部	入籍年月	官等級	内地海軍出身年月日	内地海軍出身年月日	勤勞ノ概要	受傷(受創)年月日	病名(受傷部位)	死亡年月日時刻
		横濱船舶修造部 方至分隊	昭和九年九月五日	一水	昭和九年九月五日		才重九月五日乗艇隊隊員			昭和九年九月五日
										馬公新橋橋下ノ高橋橋より船・爆彈命中 断死
										昭和九年九月五日 馬公新橋橋

死 因 省 関 番

157

昭和21年4月26日

氏名	所屬部	現任所	本籍地	官等級	入籍番號
	昭和21年4月26日			官等級 乙種第7段	

- (一) 本府警務局長及ハ職務取扱官等地方後良局人等部長宛通報スハ中責任ニ於テ領得セラル
- (二) 現職在職ノ警務士官ノ下士官兵ニ付配職ス
- (三) 同府職人ハ勿論警務局出身者ニ限リテモ配職ス
- (四) 知得タル範圍ニ於テ出来ル限リ詳細ニ配職ス
- (六) 他人ヨリ得ル者ヲ禁知タル事項ハ各該官署ニ相手方ヲ配職ス

昭和21年4月25日

氏名	所屬部	現任新	本籍地	官等級	入籍地
				海軍少佐	

- (一) 本部署の部長及び職務取扱等要地方機関局長人事部長宛通報スル中責任ニ於テ知照シテス
- (二) 要職在籍ノ要職士官ノ下士官兵ニ付配賦ス
- (三) 同職職人ハ勿論備府縣出身者ニ限リテモ配賦ス
- (四) 知照シタル範囲ニ於テ出来ル限り詳細ニ配賦ス
- (五) 他人ヨリ附任ノ要職ハ各該要職ニ付任方知照ス

407 10

行期先
出
名
二
五
八
航
空
機

留守撫臺者

三精

武藏

史

五

致

100

毒

住

所

所
釀
金
年
月
日

等 麵 氏

卷之四

人

一、

办

通江

軍人現及不期

家族の承知してゐる情況

本人からの最善の返信

發行日附一
高陽縣志一
乾隆年九月
槐月印一

歸返堂
心悟報

撰撰年月日 歷正年五月八日

德政通商

新

4

四石班佐師

本人上

一、

時
を
つ
つ
つ

水戸の城

中國醫藥

522

圖

13

10

1998

100

Author's address: Department of Psychology,
University of Illinois at Chicago, Chicago, IL
60607-7181, USA.
shirley@uic.edu

100

15-11

昭和二十一年八月一日又
 は其の後に未復費用を
 出したか
 出たければその理
 由を説明せよ
 家庭院受領の領収及取
 引帳簿を提出せよ

昭和二十一年八月一日又
 は其の後に未復費用を
 出したか
 出たければその理
 由を説明せよ
 家庭院受領の領収及取
 引帳簿を提出せよ

昭和二十一年八月一日又
 は其の後に未復費用を
 出したか
 出たければその理
 由を説明せよ
 家庭院受領の領収及取
 引帳簿を提出せよ

昭和二十一年八月一日又
 は其の後に未復費用を
 出したか
 出たければその理
 由を説明せよ
 家庭院受領の領収及取
 引帳簿を提出せよ

昭和二十一年八月一日又
 は其の後に未復費用を
 出したか
 出たければその理
 由を説明せよ
 家庭院受領の領収及取
 引帳簿を提出せよ

234

能而得之

元海軍軍人現況不明者調書

[illegible]

未復員者

消員にすゝ左記復員者

に附合せる事項次の通り

記

本籍地
現住所

三十四奥調 元少尉

一、あなたを本人は何處、何時、何部隊、何時、何時まで一緒にいたか

の場所 台灣高雄州岡山郡岡山街 (大岡山飛行場内)

の部隊名 第三十四奥雷調整班

の期間 自昭和十九年九月二十日頃
至同年四月十四日頃

二、當時本人はどんな勤務に服しておりましたか

奥雷調整班機内科員

自動車運転員として勤務しておりました

公見傳 縣

三、本、金、内、地、の、学、校、に、入、校、の、為、出、発、し、た、の、こ、ろ、に、い、ま、す、が

の、学、校、名、は、海、軍、工、機、学、校、自、動、車、班

四、出、発、年、月、日、は、昭、和、二、十、年、四、月、十、五、日

五、旅、行、方、法

當、時、私、は、機、同、科、分、隊、を、し、て、動、員、さ、れ、お、り、入、校、期、間、が、迫、つ、て、お、り、た、
の、こ、ろ、に、六、生、航、空、機、の、航、空、機、に、使、乗、を、お、願、い、し、ま、した

六、途、中、遭、難、し、た、よ、う、な、情、報、は、あ、り、り、と、し、て、い、ま、し、た、の、こ、ろ、に

私、が、四、月、十、四、日、夕、刻、東、港、航、空、隊、に、自、動、車、に、送、り、ま、し、た、の、こ、ろ、に
翌、日、十、五、日、朝、五、時、出、発、を、定、め、し、た、の、こ、ろ、に、二、時、を、過、し、た、の、こ、ろ、に、九、時、
出、発、し、た、の、こ、ろ、に、一、時、間、に、我、敵、戦、斗、機、と、遭、遇、交、戦、中、に、入、電、
あり、自、後、音、信、不、通、と、な、る

其、の、頃、午、前、九、時、は、必、ず、敵、機、の、来、襲、す、る、時、間、に、あ、つ、た、し、こ、ろ、に
は、大、胆、に、武、装、は、盾、く、当、然、裏、面、を、思、い、ま、す

四 其他本人の消息について参考にするようなる一が、あつたといふ些細な
こともよろしくすから細々と書く要あり下す

私と[]とは血族ではありませんが義理の従弟になります。私は復員
後、當時の本人の状況を詳しく家族に話しましたが本人の母が迷信を信じ
本人は生きぬると信じてゐるのを私から積極的に復員局の方に連絡するの
も都合悪く、其のうちに何とか公報があるものと今迄其儘にしておいた
本人遭難當時は既に籍は工機学校に移しておいたのが私の方では戦死
の手続きも出来ず幾回となく航空廠の方には請求しましたが何いも
音沙汰のないうちに私も復員して其のまゝに居りました。尚、庶務も私
が扱ふおぼつかうで都合が悪かつたと思ひます。

航空機の方は元整曹長 []

が頼んでくれましたから飛行機の乗務員も覚えが有ることと思ひます。

とにかく工機学校自動車班入校の爲四月十四日私が東港航空隊

近自動車を送り、其の翌日午前五時出奔の予定で、其の晩假
入隊の手續を取リ、本人を残して私達は歸りました。其の翌日晝
頃、便乗した飛行機がやられた。話を聞いたら、早速自動
車と飛びして航空隊近行き、話を聞き、たら朝五時出奔う
定のところエンジン故障、九時出奔。一時間後敵戦手機と遭
過目下交戦中、入電があり、其の後音信不通となつた。話した
に、東港出奔後一時間、二、三、台南の附近にたつた。と思ひ
ます。運良くわけは、空宿みもあり、が、こちらは武装はな
し、若し生きてゐた、とすかは、何とか音信もある、確かに戦死し
た、と思ひます。

4-25

[illegible]

家族の承知を求てゐる情況

本人らの最後の手 紙に就いて御記入下 さい	左出日封 () 年 月 日 () 部隊付號 () () () 受領年月日 () 年 月 日 () 檢閲局印 () () () 内容 本人南会へ行へば 20. 12. 13. まで滞在	(一) 部隊長から何か通 知がありましたか (二) 帰還命令から何か通 知がありましたか (三) 戦中他のひとから 何か通知がありましたか 以上より申しましたら 知らせを聞いて通知した 人の住所氏名を告い て下さい	求取付書手取付書 陣肉一匹あり、め、各佳 お合ふなり
内地出生年月日、場 所、養育所、行状が わかりますか、書いて 下さい		その他本人の状況を 知る為に必要な ことを書いて下さい	昭和19. 8. 1. 通称所へお集り 其の後、彼を救ふ、移動し、更 々、[] 所へ移動、 十月迄、戦後
家族受領者の所記と 取戻つて来る経理部 を書いて下さい			

歸還者からの情報（郷土の方々に本所へ未だ金銭を個人に貸与すること）
（自分の属してゐた部隊の清戦をせよといふこと）

備考 考		他に本人の所属をよ り知らせてあると思は れる方が在所代名を 記入して下さい		行方不明の逃亡者な らばその状況を記入 して下さい		状況 死に場所 死亡の場所 状況		戦没者としてその 状況を本欄に記入し て下さい		本人とは何処で何 かから何年何月何日 に入国したか又別れ たか状況を記入しな さい		同右現住所		情報提供者 部隊 等級 氏名 入籍番号		示処置者個人に對する商榷 協定者の属してゐた部隊の情報 この欄には所属部隊の行動、戦斗状況（捕虜となつたもの 状況）を詳しく書いて下さい （時 間、年月日も明らさない様にして下さい）	
---------	--	---	--	---------------------------------	--	---------------------------	--	-------------------------------	--	---	--	-------	--	---------------------------------	--	---	--

6102

~~6100~~

本籍地

昭和十八年十月十五日佐世保海軍運輸部に便徴台湾香港方面より本籍勤務
昭和二十年四月十七日午後六時揚子江上海の入口に於て（キライ）より船上に戦死
勤務地佐世保局と兼任第五軍用郵便所主典。イ四参。イ四。

船名

曾條丸

機長

長をいふことゝするが、

可成り

運良く安きと見ゆ小なりと見ゆ機長が戦死をいふことゝするが、

戦死確認者は二名運轉士は二名は京船中にて

現任所未定。いふことゝするが、本籍地をいふことゝするが、

戦死報告者本籍地

熊本縣

[illegible]

死致書調書

古今

台灣高雄警備隊

陸戰隊本部

22

聖祖七年二月十日

役
樓

平備紋

水 藻

水
总

故兵曹長

足

186

1

十六年十二月九日

金

後世保

1

10

十六年十二月十五日

到今
青地
五

馬公

隊

—

勸誘
力
概
要

癸巳歲次
八月廿八日

病者又止免擗都位

胸復即

解部二十一年四月十七日

義士

487

又曰虎燭時
外火也

白動車より鬼降
本深役方のうま方白動車
三子寶馬

昭和二十二年四月十五日

昭和二十二年四月十五日

死亡時の状況

自刺事件、事件発生、事件発生

右の通り承知して、おかしから申告致し、

昭和二十二年

九月

十日

入籍番号

昭和二十二年

九月

十日

不詳地

昭和二十二年

九月

十日

現住地

昭和二十二年

九月

十日

所属部隊

台湾高雄警備隊第二分隊

備考

一本調査は、死後者の身元関係一切を整理するものであるから、慎重に

に、且つ詳細に記入し、

二、他人から聞いた事柄、或は地、参考となるべき資料等は

其の旨を記入し、

死亡年月日

昭和二十二年五月廿一日

死亡時の状況

被爆一時間後死に別へた。島津重豪の被爆上級部
の島津重豪人墓地に埋葬

夜の通り承知してゐたから申告せしめる

昭和二十二年八月二十日

島津重豪大尉 氏名

印

中

入籍番号

住

住所

氏

二六五航空隊

備考

一本調査は死後者の身上関係一切を處理するものであるから慎重
に且つ詳細に記入して下さる

二他人から聞いた承知した事項、其の地、長考と云ふべき資料等は
其の旨を免余白に記入して下さい

詳細は御伺ひの機会を得ずして市役所に送る
市遺骨送着者姓名字は御送付の通りとせん

合原長

事故発生個便 事故発生 事故発生	事故発生 事故発生 事故発生	事故発生 事故発生 事故発生
六、事故発生位置及被害状況 七、救難状況	一、事故発生原因 二、事故発生年月日 三、事故発生場所 四、事故発生状況	一、事故発生場所 二、事故発生状況 三、事故発生原因 四、事故発生年月日

事故発生 事故発生 事故発生	事故発生 事故発生 事故発生	事故発生 事故発生 事故発生	事故発生 事故発生 事故発生
一、事故発生場所 二、事故発生状況 三、事故発生原因 四、事故発生年月日	一、事故発生場所 二、事故発生状況 三、事故発生原因 四、事故発生年月日	一、事故発生場所 二、事故発生状況 三、事故発生原因 四、事故発生年月日	一、事故発生場所 二、事故発生状況 三、事故発生原因 四、事故発生年月日

9588

219

2078

死 反 着 調 査

本 籍 地

現 住 所 名 同

所 屬 部 隊



部 隊

入 國 年 月 日 昭 和 十 八 年 四 月

級 推 理 役 兵 様

大 隊 長

官 年 級 警 署 主 査

氏 名



番 號

内 地 滞 留 年 月 日

昭 和 十 九 年 三 月 一 日

戦 地 到 着 年 月 日

昭 和 十 九 年 三 月 一 日 昭 和 十 九 年 五 月 十 日

勤 務 概 要

昭 和 十 九 年 三 月 一 日 昭 和 十 九 年 五 月 十 日 勤 務 概 要

昭 和 十 九 年 五 月 十 日

姓名 官階 部別

戰死時 氏名 戰死所

昭和四年四月廿日

左 中 右

昭和四年四月廿日

本籍地

現住所

所属部隊

氏名

[Redacted]

右同

[Redacted] 部隊

[Redacted]

官等 階級 海軍少尉

入籍否 詳

死後者本人 遺囑 財產 繼承 遺棄 他者 受領 遺

550-10

邦·海·陸

演劇界草上の桂葉をばておいで下さい。(原及び演劇の各欄は認致に及びません)

- 一、本証明書は本籍地での死亡の通知を行う場合の基本となる証書類であり、必ずしも正しく記述して下され。従って、記載が正確なところには、を付けてその旨を明かにして下さい。
- 二、死亡を知った方法の欄には、自から現認した（見た）、死水をとった、臨終に立会った、同僚長に立った、証書本文は関係に準拠した、其から聞いた（この場合には其が死亡を現認したのかどうかを明記すること）死亡したことを命令等で見た等死亡事実を知った方法を具体的に書いて下さい。
- 三、死亡当時の状況はなるべく詳細に記入して下さい。又参考資料として「長方の外に本人の死亡事実を知っている人があれば、その人の氏名、所居（職業）、本籍地等」「死亡者の特徴（面貌、体格、特徴、服装（前装）等）」「死亡者が軍属の場合は、その官等階級、日給、採用年月日等」その他死亡者について御承知になつてゐることは附記して下さい。
- 四、資料提供者の記入欄に、記入の出来なかつた事項を、調査官が訂正又は、補填した場合「」を附して記入し、資料提供者の記入したものと区分すること。

昭和30年11月21日		船橋復員部		第335号		先通知	
横須賀地方復員部長		横須賀地方復員部長		横須賀地方復員部長		横須賀地方復員部長	
由経		由経		由経		由経	
宛		宛		宛		宛	
呉地方復員部長殿		呉地方復員部長殿		呉地方復員部長殿		呉地方復員部長殿	
資料区分		資料区分		資料区分		資料区分	
の変更		の変更		の変更		の変更	
旧		旧		旧		旧	
新		新		新		新	
官 査 司		官 査 司		官 査 司		官 査 司	
見 所 名氏風所		見 所 名氏風所		見 所 名氏風所		見 所 名氏風所	
佐世保地方復員部		佐世保地方復員部		佐世保地方復員部		佐世保地方復員部	
本規認証より本人は長和丸乗客		本規認証より本人は長和丸乗客		本規認証より本人は長和丸乗客		本規認証より本人は長和丸乗客	
前死したため長和丸乗客者名		前死したため長和丸乗客者名		前死したため長和丸乗客者名		前死したため長和丸乗客者名	
簿には記載されなかったものと		簿には記載されなかったものと		簿には記載されなかったものと		簿には記載されなかったものと	
なり。		なり。		なり。		なり。	
手 場 年 月 日		手 場 年 月 日		手 場 年 月 日		手 場 年 月 日	
昭和30年10月16日		昭和30年10月16日		昭和30年10月16日		昭和30年10月16日	
官 公 署 名		官 公 署 名		官 公 署 名		官 公 署 名	
横須賀地方復員部		横須賀地方復員部		横須賀地方復員部		横須賀地方復員部	
要 稿		要 稿		要 稿		要 稿	

邦·海·陸

裏面記載上の注意を御覧下さい。

（及び裏面の各欄は記載に及びません）

6175

元海軍軍人未復員者調査票

連絡番号	168
留守担当者	佐田 幸子 （中略）
氏名	佐田 幸子
生年月日	昭和20年1月1日
住所	東京都千代田区千代田
現住	同上
氏名	佐田 幸子
生年月日	昭和20年1月1日
住所	東京都千代田区千代田
現住	同上

家族の承知されている情況

職名	司政官、嘱托書記、書記、技師、工員、船長、甲板員等の別を記入して下さい	内所に出発年月日、場所、姓、名、行先、場下から書き添えて下さい
志願、徴用、現地採用の別	土嶺市	家族被受領の状況と取扱っている経理部を書いて下さい
採用又は徴用年月日及部隊名 (船員は船名及船主)	水松17年1月頃 佐世保海軍司令部 土嶺市	一、部隊長から何か通知がありましたか 二、隊員から何か通知がありましたか 三、其の他のところから何か通知がありましたか 以上ありしなら、姓名を記入して下さい
外地勤務の部隊名及場所		其の他本人に就いて尋ねることを書いて下さい
本人からの最後の手紙に就いて御記入下さい	差出日附()年()月()日 部隊番号() 受領年月日()年()月()日 検閲者印()	内所に出発年月日、場所、姓、名、行先、場下から書き添えて下さい
内容		

帰還者からの情報（自衛隊の方には本陣に未帰還者個人に對するところ、自分の属していた部隊の情報を記入して下さいます）

[illegible]

6176

邦·海·陸

裏面記載上の注意を見ておいて下さい。
(※及び裏面の各欄は記載に及びません)

427030

402

25

工 賃

内所乗船出発年月日、
下より上へ行く先が、

未処理者個人に対する情報

捕違者の属してゐた部隊の情報

五言古詩

臨 年 月 月

[illegible]

62847
62

6222

昭和 年 月 日

戦死(戦病死)確認者

確認當時。所轄 吳海軍配當船

官職 氏 名 印 元男主高利丸
一等機関士

舞鶴地方復員局人事部長殿

戦死者確認の件報告

一戦後當時。所轄 船種警戒部附半工高砂丸

一戦後者官職氏名(入籍番號) 海軍上等水兵

一戦後年月日時刻 昭和貳拾年 五月 五日 午後三時五十分頃

一戦後場所 正別 南鮮海面 北緯二八度 東經三四度五分 戦死 戦病死 戦傷死

一戦後。状況

一遺骨の有 無 無 遺留品 無

一戦後着衣籍地 不明

(列明又は記述を程度に可)

戰死要員名

第一 陸軍 大連軍艦隊 第一飛行隊 中隊長 佐々木 清

大連軍艦隊 第一飛行隊 中隊長 佐々木 清

一 初任

一 陸軍

陸軍 大連軍艦隊 第一飛行隊 中隊長 佐々木 清

一 陸軍

一 陸軍

又

一 陸軍

昭和二年五月五日

一 陸軍

一 陸軍

台灣東方海岸 永連落仲

一 陸軍

大連五海軍航空隊 改組二五三飛行隊

一 陸軍

大連五海軍航空隊 改組二五三飛行隊 中隊長 佐々木 清

戰死要員名

戦時支那

5/52

鳳凰山縣

地名文書支那部

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

金身塚(鳳山邑)支那文書

時死

附

一四五

死亡部 名山漫筆

一死
二死
三死
四死
五死

死
亡
的
武
士

無置 合指七九代選 眞與也發送 獲送者名不詳 之自不詳

石の疵り承知してゐますから申告しなす。

相傳一書五卷

入信
雜
音
報








氏名

水經

100

乳餅所

0 2 1 2

10

所屬部

羅漢子相繼出漢

1

編著

一本倒れ死すの以上断絶一切を絶するものであるから快重に且

肝瀾に記入し、て下るい。

一人から聞いて夢野氏の要領を其の旨を余氏の語入して丁をい



100

11-170

166

愛媛縣

麻生大介愛媛新設
分府人寸愛媛時分

分府人寸愛媛時分

到訪小徳重

内地志士大徳重
昭和十八年九月六日

外年地
昭和十八年九月六日

等
昭和十八年九月六日

入團年
昭和十八年九月六日

所屬部隊
南方派遣隊

現任所
南方派遣隊

本籍地
南方派遣隊

死没者訓書

昭和十八年九月六日

昭和十八年九月六日

昭和十八年九月六日

昭和十八年九月六日

昭和十八年九月六日

昭和十八年九月六日

昭和十八年九月六日

昭和十八年九月六日

20人
14人
戦死

戦死
戦死
戦死

戦死
戦死
戦死

戦死
戦死
戦死

戦死
戦死
戦死

戦死
戦死
戦死

戦死
戦死
戦死

戦死
戦死
戦死

戦死
戦死
戦死

戦死
戦死
戦死

戦死
戦死
戦死

215-11

就之カ陽

記之年月

記之時カ陽

取之通下系知

昭示武在平

申入諸系

若木

有現任

ハ所部

隊

部隊

備

本調書

記之年月

直以細

記之年月

昭示武在平

申入諸系

若木

有現任

ハ所部

隊

部隊

備

本調書

記之年月

昭示武在平

申入諸系

若木

有現任

ハ所部

隊

部隊

備

本調書

本籍地

現認古朋車日

遺族現住耶

故

生

在之看は昭和九年、佐佐保海軍を常部に軍属として採用され、昭和九年四月、米軍上陸と共に故海軍大佐

戦斗部隊に歸入、昭和九年五月中旬

首尾戦線に出動を命ぜられ、直和志村松川丘陵に於て

米軍と激戦中、機銃弾に依り戦死せり

大石認下

昭和九年一月十九日

元佐佐保海軍を常部勤務

元海軍上校

要文経訓第一票 28515 首尾方面 戦死

本

元 部 道 上 林 樹 葉 花 部 第 十 四

右者は小幡重幸と聲部重信とにて、向は軍部と精部と
昭和二十年五月十日、同日、戦況、戦況、此は、連隊の運用、各々、
移動、同地、に、此は、各々の、進、退、に、備、へ、陣地、構築、等、と、
奮闘、中、昭和二十年五月十九日、敵、砲、弾、の、直、撃、を
受、け、戦、死、した、二、名、を、現、視、す、事、有、

第 11 頁

此係家生等部年額

死歿者調書

戰化齋

47965

一死歿者調書

本籍地

現住所

所属部隊

右同

第二十二特根 中隊 小隊

海軍二等兵曹

入国月日

昭和十九年二月一日

役種

補充兵

入籍番号

内地出生月日

昭和十九年六月四日

戦死時状況

防空隊中從事中 24 爆雷

戦死す

戦死日時

昭和二十年五月十六日

戦死場所

不詳 八八

右中

昭和二十二年一月十六日

本籍地

現任所

所屬部隊

官等級

入籍番号

氏名

右

同

第二十二特根

中隊

小隊

海軍水兵長

[Redacted]

[Redacted]

497-10

2

6236

200

歸還者から何か通知があつたか 其の他のところから何か通知があつたか (右通知した人の住所氏名)	昭和二十一年八月一日又は其の後に未復員届を出したか 出してなければその理由	家族渡受領の情况及取扱経理部	其の他究明上参考となるべき事項	世話 師 (科) 資料及所見	佐人 資料
提出者 4	佐々木経理部より受取				1288 20年10月/日
ばら等	行方不明者 生年月日 事故発生場所 推定後	作職 収容年月日 収容場所 推定後	本人の消息をよく知つてゐると思はれる者の住所氏名 其の他究明上参考となるべき事項		

法行部

210

5

證明書

本籍地

[Redacted]

[Redacted]

年 月 日

右者才一〇海軍工作部バタオース造船所勤務中ナリニ此昭和貳拾
年五月拾九日バタオース造船所胸膜炎併発、タメパン海軍病院ニ於
テ死亡セリ事ヲ證明ス

昭和貳拾年拾貳月拾貳日

才一〇海軍工作部バタオース造船所長

海軍署名

[Redacted]

寫

三
日
午
30

戰死確認書

所屬部隊	姓名	階級	死因	死時	死所	死後處理
第1師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理
第2師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理
第3師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理
第4師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理
第5師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理
第6師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理
第7師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理
第8師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理
第9師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理
第10師團	大島 勇	兵長	死於敵機	昭和二十一年二月二十日	大島島	死後處理

右確認(証明)ス

昭和二十一年二月二十日

在所屬部隊名 第1師團 第2師團 第3師團 第4師團 第5師團 第6師團 第7師團 第8師團 第9師團 第10師團

居住所

官 等上 等中 等下

富山縣 水部

死
亡
証
明
書

不
獲

死
者
昭
和
二
十
年
五
月
二
日
沖
繩
縣
島
尻
郡
糸
滿
所
白
銀
堂
域
界
内
ニ
テ
鑑
鏡
ニ
テ
死
セ
タ
リ
ト
シ
テ
証
明
ス

昭
和
二
十
年
五
月
二
日

昭
和
二
十
年
五
月
十
九
日
沖
繩
縣
島
尻
郡
糸
滿
所
白
銀
堂
域
界
内
ニ
テ
鑑
鏡
ニ
テ
死
セ
タ
リ
ト
シ
テ
証
明
ス

昭
和
二
十
年
五
月
二
日

戦死親認識明書

本籍地

現住所 今右

戸主

生年月日

昭和二十年五月十三日

戦死年月日

昭和二十年五月十三日

戦死場所

高 雄海兵団

職務

一等電報手

右ハ昭和二十年五月二十三日敵機ノ爆撃ニ

依リ戦死シタルコトヲ現認ス

昭和二十一年五月十五日

初海軍主計是曾長
熊本地方復興人事部長殿

熊本縣知事

熊本

2501-11

死後
復
生
者

[illegible]

米價 157

[illegible]

（第 10 页）



家族の承知を以てする情状

第一册	30		
-----	----	--	--

期 還 者 か ら の 情 報 (自 身 の 確 信 の 方 に 日 本 側 未 利 短 乏 知 入 則 ち 事 一 と)

未処理者煙入に對する簡報

所
在
於
東
亞
之
中
國
地

本
辦
地

與
在
所

所
下
三
縣

氏名

同
右

卷之三

自序

元臨軍中尉

人
其
子
也

一 本 國 書 院 藏 本
 二 夢 溪 筆 談 卷 之 一
 三 同 人 藏 本
 四 知 知 堂 藏 本
 五 山 人 藏 本

2540

管理番号	留印番号	氏名	氏名	生年月日	入籍番号	住所	住所
	留印番号	氏名	氏名	生年月日	入籍番号	住所	住所
	留印番号	氏名	氏名	生年月日	入籍番号	住所	住所

家族の承知されてゐる情況

本 人 の 最 後 の 手 紙 に 就 いて 記 入 す	呈 出 日 時 () 年 月 日 () 郵 政 局 號 () 受 領 年 月 日 () 年 月 日 () 接 蘭 肩 印 () 内 容 な し	(一) 郵政局長へ何らかの通 知がありましたか (二) 郵便費から何かの通 知がありましたか (三) 収入税と二つある ものがあるかどうか また、そのほか 以上をすべて終了した ことを証明して送附した 人の住所氏名を書い て下さい
内地出生年月日、場 所、養育者、行状が わかりますなら書いて 下さい		其の他本人の状況を 知る者に於ては口述 による事項として記入 して下さい
呈出書類の名称と 取付(貼付)の場所 を記して下さい		

歸還者からの情報 (歸還者の方から本欄に示す如き情報個人に対すること) (自分の属してゐた部隊の情報を記入して下さい)

不処死者個人に対する情報						郵便物の属してゐた部隊の情報	
情報提供者	部	隊	牙級	氏名	入籍番号	この欄には所属部隊の行動、戦況状況（艦船事故などの状況）を詳しく記して下さい （特に場所、年月日を明らかにして下さい）	
同右現住所							
本人とは何處で何から何向返一箱を何時にたまたま別れた時の本に入れたかどうしに記した下さい							
被没者でしたらその状況を本欄に記入して下さい	死	亡					
(死にか病死なら病い)を記入して下さい	死亡の原因						
行方不明か逃亡否ならばその状況も記入して下さい	原	因					
他に他人の消息をよければ知る方々の生所氏名を記入して下さい	年	月	日				
備考							

逆結番号	留 守 擔 当 者	氏 名	氏 名	生 年 月 日	住 籍 所
2019	田 中 隆 夫	田 中 隆 夫	田 中 隆 夫	1945. 10. 10	山 口 県 山 口 市 山 口 町 山 口 1-1-1

職名	司政官、病氏、書記、技 等の別を記入して下さい (通称)	内所他出発年月日、 下りさすなら書いて
用系、役用、現地採 等の別	海軍	家族受領の状況と 取扱かつてゐる経理 部を書いて下さい
採用又は役用年月日 及部隊名 (員は船名及船主)	昭和9年6月20日 海軍輸送隊	一、部知隊長から何か通 二、部知隊員から何か通 三、其の他のところから 何か通の知があるか を聞いて下さい
過外地勤務の部隊名及 所		以上より、その所を 記入して下さい
本人からの最後の手 紙に就いて御記入下 さい	差出日附()年()月()日 受領年月日()年()月()日 検閲者印() 内 容	其の他本人に就いて 参考になることを書 いて下さい

[illegible]

元海軍軍人未復員者調查票

連絡番号	留守担当者	氏名	生年月日	(現) 籍地
	職柄	氏名		住 所
家族の承知されている情况				
職名	志願、徴用、現地採用等の別を記入して下さい	採用又は徴用年月日及部隊名 (船員は船名及船主)	内地出身年月日、場所 下かきまますなら登いて下さい	家族受領の情况と取扱つている選理部を併いで下さい
外地勤務の部隊名及び場所	本人からの最後の手紙に就いて御記入下さい	差出日附()年()月()日 部隊符號() 受領年月日()年()月()日 検閲者印() 内容	一 部長から何か通知がありましたか 二 艦長から何か通知がありましたか 三 その他どこか通知がありましたか 以上あり通じた人の姓名を書いて下さい	其の他本人に就いて尋ねることを書いて下さい
帰還者からの情報 (随選者の方は本欄に未處理者個人に対すること。自分の属していた部隊の情報を入れて下さい)				
未處理者個人に対する情報			歸還者の属していた部隊の情報	
情報提供者	部隊	身分	氏名	この欄には所属部隊の行動、戦況状況(艦隊事故ならその状況)を詳しく書いて下さい (特に場所、年月日を誤らない様にして下さい)
同右現住所				
本人から何れの時に入れたかを本欄に記して下さい	死 亡 因 状 況			
死亡年月日	死亡の場所			
死亡の場所	状 況			
行方不明ならばその状況を記入して下さい	原 因			
年 月 日	場 所			
他に本人の消息を知っている方を記入して下さい				
備考				

木
竹
土也

現任所

所屬部隊

團月日

學級

四
年
閏
五
月
出
元

年
月
至
日
着

世の
務
の
概
要

不學無術

福岡縣傷

傷寒

馬公方面特別根據地隊

昭和元年八月吉日
相浦演兵團

二
等
兵
曹

光緒十九年
二月

光緒十九年十二月

其公亦曾將別張謀也

昭和二十五年五月

役
種
現
役

年氏
令近

伍
五

卷上
台陽集

卷之七 高唐州志

11

仁
一
種
樂
科

入籍

三

100

宣統三年十一月

1994

68-19

年 月 日

狀况

萬公明別飛揚地降于終南之南嶺嶺平瘴瘴入隄之孔之

右之通り承知して力まずから申告致します

昭和
年
月
日

入註精審身

寧級

氏名

木
籍
地

現值所

所屬前隊

再令方面特別根據地隊

權考

不調書は死役者の身上関係一切を處理するものであるから、

重刊
詳細
記入
下

二他人公の聞、て承知した事項は、他一人から、

その日末尾餘日に訖入り下さ。

馬狩根、高知、元七、通知、下、井、生、森、石、ト、一、等、頭、一、ニ、了、ア、リ、長、

此確一死之レト云々事ヲ聞ク事又

呂 龍 王 雄 一 忍 又 馬 特 根 西 伊 卜 夫 一 王 使 解 差 班 中 會 核 不 示

100

7185
23
8
21

68-20

現況不明者消息調查依頼票（昭和三十三年六月五日）

吳地方優異殘廢吏理部優異業務課優等證書

[illegible]

24

答	欄	(註)
は合場 きといな 本入消息を録する 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々	本入消息を録する 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々 本入消息を録する 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々 本入消息を録する 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々 本入消息を録する 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々	(一) 本表は吳事下山子町日吉寺に在りて其の と下す (二) 知得事頃は推定のみ結構よりから燭火なく減れなく記註と下す (三) 消息は確証といふなり他人より得たる事次ありき其の記註と下す
後記に記す 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々	本入消息を録する 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々 本入消息を録する 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々 本入消息を録する 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々 本入消息を録する 如王と明とを 又々々々々々々々々々 又々々々々々々々々々	(一) 本表は吳事下山子町日吉寺に在りて其の と下す (二) 知得事頃は推定のみ結構よりから燭火なく減れなく記註と下す (三) 消息は確証といふなり他人より得たる事次ありき其の記註と下す

甲

現況不明者究明調書

(調査期日 10月18日)
(場所 所係4世住持)

姓	名	部	隊	等	級	身	分	氏	名
		員	5/年	二	常				
出	身	府	縣	所	管	道	員	局	方
入	籍	府	縣	所	管	道	員	局	方
申	告	事	項	20年5.6月頃、在學より大陰に轉進の爲某親に 便乗、本港回りの沈没の際、身死と推定す [redacted] 氏(本姓)が良く知つてゐる					
中	告	者	住	所	職	稱	氏	名	
中	告	者	住	所	部	隊	等	級	氏
調	査	官	世	部	博愛丸関係と考へらる				
所	見	人	無	氏					

鯉鶴地方復員務處理部

本
月
日

1. 本調査は甲表一、乙表三を調査する
2. 甲表……總べて調査官にて記入し(鉛筆書にて可) 郵復人に送付する
3. 乙表……郵復人にて甲表により三通調製
調査世話課へ一通
所管復員局へ一通
調 世話課へ一通(復員局経由) } 送付する
4. ※備考は郵復人で記入する

106-14